
我が愛しの...

パンター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我が愛しの…

【Nコード】

N4708Y

【作者名】

パンター

【あらすじ】

伝説の女スパイマハタリの正体とは。

（前書き）

またまた久しぶりに上げました。よろしければ御笑読下さい。

A 国中央情報局防諜作戦部の部員全員が色めき立っていた。

B 国諜報機関の伝説の女スパイとして恐れられているマハタリが A 国に入国したらしいというのだ。

その素性、素顔など一切不明の女スパイの存在は別の潜入していた B 国スパイへの尋問で明らかになった。

長らくその存在すら知られていなかったマハタリは B 国諜報機関においても生きた伝説であるという。

「で、いったい何者なのかね？マハタリとは」防諜部部长は以前 5 年間 B 国担当だった対外諜報部員を呼び意見を求めている。

彼は何度も B 国に外交官として入国し、外交特権の及ぶ範囲内の活動で国内の協力調査員を使って諜報活動を行っていた。本国から来た諜報員が自ら危険を犯す必要はない。国際問題にもなりかねないから自身ではなくその国の人間を現地工作員として雇い、諜報活動させたほうが合理的だったからだ。

その現地工作員がその存在とコードネームを収集するのがやっとだったのだ。

「女、だということ以外一切が不明です。それすら事実かどうか確証が得られません。ですが彼女にたらしこまれて機密情報を漏らした愚かな V・I・P はこの国にも何人もいるのです。しかし漏らした相手について一切の記憶がない。どういう記憶操作をしたのか全く不明です。B 国がそのような技術を開発したという情報も入ってきていません。ただ三日前我が国の軍需企業の一つのサーバーにハッキングを仕掛けてきたクラッカーを逮捕。そいつがマハタリの依頼を受けたと証言したことから発覚しました。ですがいまだ我々の情報網では未だ捉えきれません」

「うむ。第一初めてマハタリの名がこの世界で登場するのは半世紀前の大戦の頃だ。もし生きていても老人ホームで隠居生活している

歳だぞ。同一人物である可能性は極めて低い」

「と言うことは、同一のミッションをこなす女スパイに付けられるコードネームということかもしれないですね」

「その可能性は高いな。だとすると過去のデータでは捕えることはできない。別人だからな」

「ではどうします？」

「そのハッキングされた企業の上層部、または技術者に接触してくる外国人をマークしろ。新たな情報提供者を欲しているはずだ」

「そうですね」

しかし企業の従業員に対して条件に該当する女性の接触は一向に確認できなかった。防諜部に焦りが見えだした。そんな時、企業で動きがあった。

この企業の創業者の孫娘の誕生日が盛大に催されることになったのだ。娘は10歳。現相談役の創業者にとつて目に入れても痛くないほどの可愛がり様だったため、政治経済芸能界の大物有名人を集め200人を超える招待客を迎えて国家元首のような豪華な誕生日会となった。

この企業はB国に農業製品を輸出しており相談役は国賓扱いされていたためB国の外交官もこの催しにやって来ていた。

密かに誕生パーティに加わっていた防諜部員たちは創業者に絞って接触者をマークしていた。しかし不審人物の接触はなかった。唯一B国大使から孫娘へ誕生祝いが手渡されたぐらいだった。それはぬいぐるみだった。B国で歴史のある熊のぬいぐるみは世界中の子供に人気の人形だった。

「あ、ああ。そういうことか」部長は離れた所から部員の服に取り付けられているカメラから送られてくる画像を通して監視していたのだ。

「あの人形を確保しろ。これが伝説のスパイの正体だ」

ぬいぐるみを手にするまでに防諜部は外務省と事を構えて一悶着があったのだが、なんとか入手に成功した。

それは催眠機構だった。子供からその親へ、その機構はある情報を持つ者のところまで関係者を催眠で誘導してそこにたどり着くと情報を収集して元の主のところへ帰ってくる。そこで誰かが必ずそのぬいぐるみの体の一部を破壊する。熊は修理のために製造元へ送られて修理される。戻ってきた人形の内部にある情報はそこで抜き取られて修理された熊は再び持ち主へ戻される、という仕組みだった。

「B国の言葉でマハタリとはマハは私。タリは愛しいの意味だ。つまり、マハタリとは私の愛しい（もの）ということだ。なぜ今までそこに気づかなかったのか」

「まさか自分の子供が協力者になっているとは思いませんよ。そこが盲点だった」

「そういえば」部長はあるウンチクを思いだした。

「あの熊には性別があるみたいだ。確か首のリボンが赤いと雌だったと思う」

確かに件の熊の首には赤いリボンが結ばれていた。

（後書き）

そういえば未完の連載ものがあつたような。すっかり忘れていた。スランプ解消の折には必ず上げさせて頂きます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4708y/>

我が愛しの...

2011年11月17日17時46分発行